The Japan Association of College English Teachers (JACET)

Sep. 8 (Wed.) 12:20-13:20 POS 2F Auditorium Entrance
(Poster Displayed 10:00-17:00)

Field /分野 : Others

多文化共生社会における大学英語教育と言語アセスメント

Linguistic Assessment and College English Education in Multi-Cultural Society

言語アセスメント研究会
小宮富子（岡崎女子短期大学），河原俊昭（京都光華女子大学）
石川有香（名古屋工業大学），榎木薗徹也（中京大学）
岡戸浩子（名城大学），吉川　寛（中京大学）

1．研究の目的

グローバル化が進む現在、日本における外国人登録者数は過去最高の220万人を超え、多文化多言語共生社会への対応力の獲得が切実なものとなりつつある。英語がすでに多文化対応の国際語として用いられていることを考える時、日本を含むアジアにおいて「多文化対応言語としての英語」がどのように使用されているのか、あるいは他の諸言語との関係も含めて特定の社会文脈の中でどのように学習されるべきかを問うことには現代的な意義があると思われる。本発表の目的は、アジアにおける多文化対応言語としての英語使用の現状を確認すると共に、「言語アセスメント」の手法を用いて、大学における英語カリキュラムや教材の開発などの具体事例を取り上げ、多文化共生社会のニーズに対応し、自律的学習者の育成につながりうる大学英語教育の在り方についての評価や提案を行うことである。

2．研究の方法

「言語アセスメント」とは、「組織などにおける外国語対応が国際化する現代社会のニーズにどの程度合致しているか」等についての分析・評価・提案を行う活動であり、1）特定の組織や共同体がもつ外国語対応力の弱点や利点の分析、2）多文化多言語社会においてその組織に求められている外国語対応へのニーズの分析、3）ニーズ対応に必要な外国語対応力の確認、4）目標実現へのプログラムの設計、5）成果の評価・検証とプログラムの改善、などが一般的な手順である。本発表では、大学英語教育におけるいくつかの事例において可能なかぎりこれらの手順に沿った分析を行い、多文化共生社会における英語教育のあり方に関する提案を行った。

3．研究の内容

今回の発表では、「多文化共生社会における大学英語教育と言語アセスメント」という共通テーマのもと、研究会員は以下の4つの小テーマに分かれて研究をおこなった。

①多文化共生社会のニーズに対応する大学英語教育の評価視点

言語アセスメントは、例えば「英語教育」「言語政策」「差別表現」「言語サービス」「外国語学習」等の様々な研究領域に応用可能であると考えられる。本研究では、上

NII-Electronic Library Service

The Japan Association of College English Teachers (JACET)

記の「英語教育」の中でも「大学英語教育」をとり上げ、多文化共生社会のニーズに対応し得る具体的な大学英語教育の評価や提案を行う前提として、必要とされる評価視点について提示する。キー・ワードとしては「英語教育の在り方」「日本社会の多言語・多文化化」「複言語主義」「言語意識」「英語の多様性」が挙げられる。

②言語サービスの観点から見たLanguage Passportの開発と自律学習者の育成に関するアセスメント

本発表では、観光英語を題材とした大学英語教育の実践事例を取り上げ、多文化共生社会への対応と自律学習者の育成というニーズに対応する視点からのアセスメントを行う。「観光英語」の指導法として、多文化共生社会における言語サービスの観点を取り入れた「言語パスポートLanguage Passport (LP)」を提案し、その有効性を検討する。LPの活用により、大学4年間を通した学習者の学習履歴・自己評価・取得資格などが記され、自らの達成度を絶えず参照しながらの学習が可能となる。LPはすでに様々な形で試みられているが、ここでは多文化共生のためのLPを提示し、言語アセスメントの視点から、自律的発達を促す大学英語教育のあり方を評価・検討する。

③南アジアの教育改革におけるNational Curriculum Framework(NCF)の有効性

近年、インド政府はNational Curriculum Framework (NCF) を発表し、学校教育改革に取り組んでいる。NCFで注目すべきは、英語のシラバスの先進性である。特に、11-12学年の"English Core"は、文学偏重でteacher-centeredのインドの旧来の英語教育と明らかに異なり、コミュニケーション重視でlearner-centeredな内容である。本発表では、NCFをアセスメントした上で、国際英語の観点から日本の大学英語教育への提言をおこないたい。

④国際英語論の視点からみた大学英語教育のアセスメント

大学英語教育における教育目標と方法論には時代の変化を反映した現実性が求められる。多文化共生社会への対応が切実となる中で、大学英語教育に国際英語論の視点を反映すべきとする声は多いが、国際英語論の理念は実際にどの程度日本の大学における英語教授法、カリキュラム、技能、情意的側面などに反映しているであろうか。本発表では国際英語論の視点から大学英語教育の現状に関するアセスメントを行う。

4. 結論

多文化共生社会における大学英語教育のあり方について、①では主として多文化共生社会における大学英語教育の評価視点を提案した。②では多文化共生時代における言語サービスの観点から観光英語の導入の意義を論じ、カリキュラム・テキストの開発，言語パスポートの利用を具体的事例として取り上げ、これらが自律的学習者育成に効果的であることを指摘した。③ではインドのNCFの有効性を他のアジア諸国と比較しながら分析し日本の英語教育改革への参考点を論じた。④では国際英語論の視点から見た大学英語教育のアセスメントを行い、国際英語論が必ずしも充分に大学英語教育に取り入れられていない現状を分析し、可能な導入方法についての提案を行った。

NII-Electronic Library Service